

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『つないでいこう、税金』

町田市立鶴川中学校 3学年 三浦 萌々夏

私たちが普段生活している場所には、整備された道路があり、家にはお風呂やトイレがあり、無料の教科書、環境の整った学校がある。普通に生活しているとあまり向き合うことは無いが、これらは全て税金によって成り立っている。そんな税金を私たちは払っているし、これから色々な場面で払っていく。一番身近なものといえば、消費税が挙げられる。元の値段に消費税がかかることにより払うお金が足りず、わざわざ五百円玉や千円札を出すこともあり何度も税が無かったらなと思ったことがある。けれど本当に消費税を含む税が無くなったらどうなるのか。調べていくうちに興味深い記事を見つけた。

その記事の中では税金がいっさいない世の中が書かれていた。今まで私たちの安全を守ってくれていた警察はいないし、トラブルに巻きこまれてもお金を払わないと解決してくれない。救急車を呼ぶにもかなりの金額がとられ、ケガをしても誰も病院に電話をかけてくれず自力で病院に行っていた。さらには道路も整備さ

れていないため、あちこちにヒビ割れが。他人が修復した道には通行料がとられていた。今の生活では絶対にあり得ないことばかりだった。つまり税金が気づかないところで私たちの当たり前を作ってくれているのだ。

払う側になると、この税がなければと思うこともあるけれど、身の回りの様々なものに目を向けてみると税金によって私たちの暮らしが守られ、快適に過ごせるためのものが多くある。

私は今、中学三年生で義務教育中だ。学校でも多くの税によって成り立っているものが多くある。教科書に給食、授業を受けられる環境。数えきれないほどだ。来年、高校生になっても授業料が無償化になるなど税によって支えられる。きっと大人になっても、おばあちゃんになつてからもだ。

こんなにもたくさん支えられているのに、この作文を書いていなければ、きっと税金に支えられていることを知らないまま、税金なんて無ければなと思いつけていたかもしれない。だが、自分で調べてみることで税がとても大切だということが気づかされた。

今の当たり前は、自分の両親や祖父母、たくさんの人がつないでくれたものだ。そんな当たり前を、次は私たちがつないでいく番だ。だから私は大人になった時、しっかりと税金を納めたい。